

KAINOSHO Tadaoto:  
Crossing Boundaries in  
Nibonga,  
Theater and Film

個性越境する  
映画を  
演劇、  
絵画、

# 甲斐文荘

# 楠音



# 全王貌展

- 1.《幻覚(踊ら女)》1920年頃
- 2.スケッチブックから
- 3.《秋心》1917年

3点とも京都国立近代美術館蔵  
「国画創作協会」の会員としても知られています。通念としての理想美を描き出すのではなく、美醜相半ばする人間の生々しさを巧みに描写した甲斐文荘の画風は、戦前の日本画壇で高く評価されました。しかし、1940年代初頭に画業を中断した後は映画業界に転身。長らくその成果が顧みられることはありませんでしたが、1970年



本展は、様々な領域を越境した表現者・甲斐文荘楠音(かいのしゅうただおと) / 1894(1978)の生涯にわたる創作の全貌を回顧するものです。

甲斐文荘は大正期から昭和初期に日本画家として活躍し、革新的な日本画表現を世に問うた美術団

代半ばから再評価の機運が高まり、没後20年を経た1997年には回顧展が開催されます。そこで日本画家としての活動の全貌が初めて紹介され、同時に「京都画壇の異才」という定評を確立して今日に至ります。

美術館での二度目の回顧展となる本展では、日本画家という枠組みに収まりきらない甲斐文荘の「越境性」を紹介します。画家としての評価の影に隠れてしまつた甲斐文荘の別の側面——溝口健二ら稀代の映画監督を支えた風俗考証家、歌舞伎など演劇を愛好し又自らも素人芝居に興じた趣味人としての活動は、これまでほとんど注目されてきませんでした。さらには、女形としての演技や異性装による「女性」としての振る舞い、セクシユアルマイノリティでもあった甲斐文荘の嗜

好／指向は、彼の表現活動を解釈する上で重要な要素です。本展ではスクラップブック・写生帖・絵画・写真・映像・映画衣装・ポスターなど、甲斐文荘に関する資料のすべてを等しく展示します。異色の日本画家から「複雑かつ多面的な個性をもつ表現者」へ、甲斐文荘楠音を再定義することが本展の目的です。

これらの資料を涉獵すると、多岐にわたる興味と欲望の交錯、創造する個人の複雑な内面世界が見えてきます。一つひとつの作品は、それらが収斂した重層的な結晶として再解釈されるはずで、俳優が様々な役柄を演じ分けるように、多彩な顔をもつ甲斐文荘という一つの個性は、現代を生きる我々に少なからぬ示唆を与えてくれることでしょう。

「国画創作協会」の会員としても知られています。通念としての理想美を描き出すのではなく、美醜相半ばする人間の生々しさを巧みに描写した甲斐文荘の画風は、戦前の日本画壇で高く評価されました。しかし、1940年代初頭に画業を中断した後は映画業界に転身。長らくその成果が顧みられることはありませんでしたが、1970年



〔配付資料〕

東京ステーションギャラリー  
TOKYO STATION GALLERY

2023 7.1 sat. 8.27 sun.



# 甲斐莊 楠音の 人王貌

絵画、  
演劇、  
映画を  
越境する  
個性

2023  
7.1 sat. 8.27 sun.

会期=2023年7月1日(土)~8月27日(日)

会場=東京ステーションギャラリー  
(〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1)

主催=東京ステーションギャラリー[公益財団法人東日本鉄道文化財団]、日本経済新聞社

協賛=高砂香料工業  
特別協力=東映、東映太秦映画村

協力=国際日本文化研究センター、  
京都日本文化資源研究所

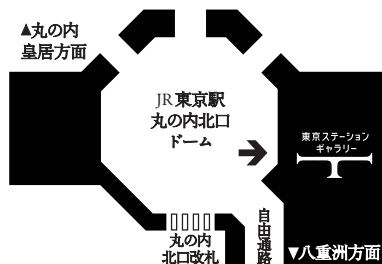
休館日=月曜日(7月17日は開館) 入館料=未定

開館時間=10:00~18:00(※毎週金曜日は20:00まで ※入館は開館30分前まで)

tel. 03-3212-2485

ウェブサイト=[www.ejrcf.or.jp/gallery/](http://www.ejrcf.or.jp/gallery/)

巡回先=京都国立近代美術館  
2023年2月11日(土・祝)~4月9日(日)



アクセス

●JR東京駅丸の内北口改札前

広報に関するお問い合わせ  
東京ステーションギャラリー(羽鳥)  
tel. 03-3212-2763



- 見どころ
- ・初公開資料が目白押し、京都が生んだ異才の知られざる全貌に迫る
  - ・甲斐莊が手がけた映画の仕事、東映京都撮影所に残された珠玉の衣裳群を展示
  - ・メトロポリタン美術館から名作《春》が凱旋
  - ・甲斐莊像をアップデートする25年ぶりの回顧展

東京ステーションギャラリー  
TOKYO STATION GALLERY



4.『藤椅子に凭れる女』1931年頃/5.『力士の頭部スケッチ集』/6.『道行』1924年/7.『道行の女性に扮する甲斐莊楠音』/8.『旗本退屈男謎の暗殺隊』衣裳(部分)、衣裳製作者:三上剛、東映株式会社京都撮影所蔵 ©東映(映画公開:1960年、監督:松田定次、製作会社:東映株式会社、衣裳着用者:市川右太衛門)/9.『虹のかけ橋(七姉)』1915-76年頃/8以外すべて京都国立近代美術館蔵